

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス おひさまがらす		公表日		令和7年3月12日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	・小部屋もあり、子どもに合わせて使用できる	・整理整頓をして清潔な使いやすい部屋にする。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	1	4	・児発からフォローに入ってもらっている。	・1対1対応の児童が多い曜日に関しては職員の余裕がなく配置に苦慮している ・準備が細かくできるよう正規職員をサポートするスタッフが配置できると良いと思う ・スタッフが足りなくて困っておられる場面があった。 ・児発からフォローに入ると児発職員も事務時間が無くなる。逆も同じ。そのため改善が必要		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1		・支援グッズの整理整頓をしやすい環境作り		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		・会議を通して意見交換している。日頃のミーティング等気がなった時すぐに話す	・会議を通して意見交換している。日頃のミーティング等気がなった時すぐに話す ・PDCAサイクルについて学ぶ		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・保護者交流会 2回/年、事業所説明会1回/年開いている			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・保護者交流会 2回/年、事業所説明会1回/年開いている			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		・第3者評価を受けていない		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		・職務に合わせた研修、本人希望の研修を受ける ・法人内児童部研修1回/年	・外部研修に参加することが少ない（人員配置の関係）		
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		・ホームページにて公表している			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		・年度始めにアセスメントしている（年齢別シート の提出） ・1回/半年のモニタリング・アセスメント	・チームでニーズや課題分析をする時間が不十分 ・児発管が十分なアセスメントを行い、ニーズや課題をチームで共有する手順が必要		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		・1回/半年の個別支援会議を開く			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		・放デイ会議での申し合わせや日常の療育の前後で確認			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		・システム（HUG）を使用して共有している ・JSI-Rによる分析 ・OTや心理士による実践研修			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		・放デイ会議（2回/月）でガイドラインの読み合わせをしている。個別支援会議で項目ごとにモニタリングしている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・プログラムの各担当者からの発案を基に放デイ会議で検討する	・プログラムについて振り返りと立案の時間を十分にとる ・プログラムに継続性を持たせる（1年間）		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		・季節、児童の年齢、特性を考慮して興味を持って取り組みができるようにしている	・プログラムについて振り返りと立案の時間を十分にとる ・プログラムと療育的なねらいの共通理解をする
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			・固定したグループだけではなく特性、年齢などの違いも絡ませたグループ作り
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		・1回/日、時間を決めて全体とグループごとで行っている	・こどもひとりひとりの課題について共有したり、支援グッズの準備などの時間が少ない
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		・支援終了後その日のうちにヒヤリハットの案件の共有をして、翌朝支援の振り返りを行っている	・打ち合わせの時間が少ない
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		・HUGシステムの入力（連絡帳・考察）をして共有している	・支援の検証・改善が効率よくできるようにする
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		・1回/半年 ・相談員とも共有している	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			・学校との連携の機会が少ない。 ・平日は、地域交流の場が少ない
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		・各プログラムやフリータイム等一日を通して自己決定の場面作りをしている	・選択肢を増やす
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		・児発管と担当者が出席している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	・医療、教育についての連携は保護者を通して情報共有することが多い ・学校訪問をさせて頂いて報告書を保護者に提出している	・学校との連携がスムーズにできると良い
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	・1回/週時間割、行事予定の共有をしている ・行事や悪天候による下校時間の変更については学校から連絡を頂いている。年度始めに利用者の利用日などを学校と共有している	・学校行事の情報共有がスムーズにできると良い
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		・担当者会議や支援会議には必ず出席している ・同じ法人内の児童発達との連携は小まめに行っている。	・お互い実際の場を見学し合えると良い。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		・担当者会議、支援会議などに出席している ・保護者の依頼を受け、情報提供書の作成をしている。	・お互い実際の場を見学し合えると良い。 ・現場実習の見学など
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		・児童発達支援センター輝なっせ、GIFTとの情報共有をしている ・中核的機能のセンターやこども総合療育センターの定期支援、随時支援を受けている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5		・園庭、交流プラザの開放により地域の子供達とフリータイムに遊んでいる ・法人のマルシェに療育プログラムとして参加し地域の子供と交流している	・交流の時間が取りにくい
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	1	・菊池圏域の会議に参加し、大津支部会にも参加している。 無回答：1	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		・HUGシステムによる連絡帳、LINE、電話、お迎え時の振り返り時などに気軽に話ができるようにしている。	・HUGシステムによる連絡帳を保護者が毎回、確認して頂けると良いが慣れるのに時間がかかる
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	・ペアトレ開催の情報共有、ファミリー学習会の案内、療育参観ウィーク、ポスター掲示による啓発をしている	・保護者に療育に関心を持ってもらえるような発信ができると良い ・保護者の参加が少ない
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・1回/年 3月に活動報告と次年度の事業説明や提出書類、制度改正等の説明をしている。	・保護者の参加が少ない
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		・2回/年のモニタリング、年度末に次年度の利用確認をしている。計画書作成の時期に子どもと計画書について話をする時間を作っている	・子どもとの面談や意思確認の時間が必要
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		・2回/年 対面・電話面談をしている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		・適宜行っている	・気軽に話せる機会が必要

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		・2回/年 保護者交流会、マルシェへの参加案内をして準備から一緒に行った	・保護者が参加しやすい雰囲気作り
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・契約書にて苦情担当を伝えてマニュアルに沿って対応している	・苦情についてスタッフ間で振り返り時間があると良い
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		・1回/月 お便り発行	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・契約書により個人情報の取り扱いについて同意を得ている。1回/年同意内容について確認する	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・視覚的な支援などを行っている。配布物や提出物など写真をメールで送り、説明している。 ・連絡帳に活動の様子の写真を載せている	・保護者からの発信が出にくい ・個別に応じた配慮が不十分な為、伝わっていないことがある
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5		・園庭、交流プラザの開放。マルシェを地域交流の場としている。(地域ボランティアの参加)	・地域の友達に通所していることを知られたいと思っている利用児童もいる
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			・マニュアルを策定し、訓練もしているが職員や家族への周知は不十分である
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			・マニュアルの策定はしているが訓練実施に至っていない
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		・保護者にサポートブックを提出して頂いている。変更や発作が起きた時はその都度、連絡を頂いている	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		・保護者を通じて情報提供書を頂き、栄養士とも情報共有している。食事、おやつ提供時に内容の確認をして提供している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・1回/月の避難訓練実施(火災・地震・水害・不審者) 避難の注意事項は視覚支援を取り入れて子どもに分かりやすくしている	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	・契約の際に安全管理について説明をしている	・家族への周知が不十分
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		・支援終了後にヒヤリハット案件について確認をしている。2回/月の放デイ会議で情報共有している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・サポーターズカレッジ等の研修を受けている ・1回/月の会議で実際の支援の中での虐待防止について検討している ・職種に応じた虐待防止研修に参加している	・演習などを通して実際の支援の場での虐待防止について学ぶ時間を作る
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		・契約書において説明をしている。身体拘束についての同意書を元に説明している。会議の中で確認し合っている。	・個別支援計画書に記載していない。